

合志市地域公共交通協議会【平成20年度第1回】

[日 時] 平成20年5月23日（金曜日） 午前9時30分

[場 所] 合志市役所合志庁舎 2階大会議室

[出席者] 別紙のとおり

1. 開会

全員起立によりあいさつ

2. 委嘱状の交付

大住市長より委員を代表して松永邦夫委員に委嘱状の交付

3. 大住市長あいさつ

4. 委員及び事務局の紹介

委員及び事務局員の職・氏名を紹介

※会議資料の確認

5. 協議会の目的及び協議会要綱・規約の説明（事務局）・・・資料集1

6. 議題

事務局：議題の進行は会長が議長となって進行すべきところですが、第1回目で未だ選出されていませんので、ここまでは事務局で進めさせていただきます。協議会設置要綱第3条第1項に会長及び副会長は、委員の互選により選出するとなっています。希望される方は挙手をお願いします。

松永委員：委員の皆さまも仕事があり、お忙しい立場の方も多いかと思いますので、会長及び副会長は市から出していただくことでどうでしょうか。

吉永委員：事務局案はないですか。

事務局：市の方から、及び事務局案はないかのご発言がありました。事務局案といたしましては、会長に中園副市長、副会長に熊本大学の溝上教授にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

全委員：異議なし。

事務局：それでは、会長に中園三千代様、副会長に溝上章志様にお願いいたします。これからの進行は、会長にお願いいたします。

中園会長：4月から副市長を務めております中園です。県から派遣されております。合志市は公共交通が整備されれば、ますます発展するという実感を持っております。

皆様のご協力を得ながら、実のある計画を作っていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

溝上副会長：熊本大学の溝上です。専門は交通計画や都市計画です。旧西合志町では、シンポジウム等に関わってきました。これまでの、調査研究を活かして、合志市の公共交通の活性化と充実に向けて尽力しますので、よろしく願いいたします。

中園会長：それでは、議題（２）について事務局からの説明をお願いします。

事務局：資料集 2 に基づき、合志市の現状などについて説明。（校区別人口、通勤通学流動など）

事務局：資料集 2 に基づき、平成 19 年度公共交通市民アンケート調査結果について説明（アンケート結果概要など）

中園会長：以上までの説明についてご質問などはございますか。

松永委員：資料中の企業アンケート結果概要の JR グループは JT グループではないですか。

事務局：JT グループです。訂正をお願いいたします。

溝上副会長：資料 11 ページに関連して、熊本電鉄の委員さんにお尋ねします。バス停の乗車人員や利用区間などの調査はされていませんか。あれば次回にでも提供していただきたい。

一般社会人アンケートについて、利用した公共交通機関別に満足度などの評価が分かる資料あれば良いと思います。

隣接した地域とあるのは、どの方向の地域なのか。例えば熊本方面なのか。企業従事者アンケートで、交通渋滞の発生箇所はどこなのか、またどちら方向への通勤者で交通渋滞があるのか。

「希望するバス路線の新設・増便」の欄で、セミコンテクノパーク方面とあるのは、どこからどこへの路線なのか。

発着・経路がわかれば地図などに落としてみると良いと思います。

そうすることで、必然的にどういう施策がみえてくると思います。

小田原委員：バス停での乗車数や経路は一部データがあります。バスの To 熊カードであればバス停間の利用状況がわかるが、利用率は全体の 4 割である。現金の利用者との誤差は生じると考えられます。データの整理をすれば、その区間の利用状況がわかります。

溝上副会長：整理券から調べられませんか。

小田原委員：利用者を数字的に把握しているのは、系統になります。熊電バスで 130 ほどあります。どこからどこまでという把握はできていません。

溝上副会長：お金と一緒に整理券を入れるので、特定の場所はわからなくても、全部集めれば、どこからどこまでという集計はできないでしょうか。

松永委員：乗車区間では把握はできないか。降車は現金にしてもトータルでしかわからないだろうが。

小田原委員：他社では乗降車がわかるシステムを導入しているところもある。

松永委員：乗車は区間番号などでどの停留所かわからなくても、区間はわからないか。

小田原委員：運賃箱は1日1回だけ開けるが、何百という整理券がある。いろいろな系統を走っており、固有の番号にしていなかったため、同じ番号がたくさんある。今の状況ではどこの系統の整理券かわかりません。

溝上副会長：今の仕組みでは把握は難しいでしょうが、やろうとすればできるので、時間と労力やお金との相談をしながら、今後も検討してほしい。

事務局：後のほうの質問で、隣接した地域はどこかとのことですが、質問の中では熊本市を除く近隣地域としています。熊本市については別途に質問があります。交通の評価で、現状で劣っていると答えた方の中で、普段どういう交通手段を使っている人が答えているのかは、集計を分析すればわかりますので、次回に提出します。

企業従事者アンケートで、新設を希望する方面のうち、例えばセミコンテクノパーク方面では、JRや熊電からどこ行きのバス路線を望むのかと質問していますので、どこの駅からかはわかりません。工業団地とJRや熊電の位置を考慮して想定するしかありません。集計が可能かどうか検討をしてみます。

溝上副会長：商工会のほうでわかられるかどうかですが、工業団地の方たちが会社のバスや公共交通の利用されることについて、企業ではどういう姿勢をとられているか把握できていますでしょうか。

荒木委員：現実的には把握はできていません。商工会と企業連絡等協議会に所属されている企業があります。工業団地ごとに集計をしていません。マイカー通勤者がどちらから出勤されているかによっては、バス路線があるところとないところがあります。現在、バス会社のなかで、競合路線の再編などについて話し合いがされ始めたと思います。現実としては、通勤に便利なバス路線が整っていないため、どうしてもマイカー通勤になってしまっている。

大企業は合志市外から、その他の工業団地は合志市内からの通勤が多いと思いますが、方向性までは検討していないと思います。

溝上副会長：会社が公共交通機関をもっと利用するよう会社ぐるみでやりましょうという考えをもっておられるかどうかはいかがでしょうか。

守田委員：会社としての明確な方針などは、どこもまだ出されていないと考えます。

環境負荷軽減や交通渋滞緩和、交通事故のリスク回避などの考えから公共交通機関の利用は必要なことだと考えています。ただ、現実のインフラ整備の問題がありますので、マイカーに依存していると思われます。

アンケートでは、特に期待することはないとの回答が多かったですが、誤解していただきたいのは、合志市に居住していないので、回答しづらいという意味もあります。別のセミコン内での協議会でも交通渋滞の解消は、最重要課題となっています。

吉永委員：単純な質問ですが、この協議会を設立して合志市としてはこういう風にして

ほしいという提言して、交通事業者をお願いすることになると思います。
その場合は、事業者としては、当然収支のバランスを取りながら取り組むことになると思います。合志市としては、この協議会で取り組む事業について、事業者をお願いするだけなのか、予算を投入して取り組んでいくのか教えていただきたい。

中園委員長：計画を作ることの目的について、事務局から説明してください。

事務局：目的は先程の説明のとおりですが、合志市の総合計画にある公共交通の充実を目的としています。合志市として公共交通の課題に対して取り組んでいくかを協議していただき、3カ年の補助事業を活用して取り組んでいきたいので、予算も伴います。事業者としてどこまで協力できるか、市民としても協力できるかを協議していただき、それぞれの地域でいろいろな取り組みを試してみたいと考えます。市としては課題解決に向けた取り組みには予算をつけて行っていきます。具体的には、循環バスも試行運行中ですが、バスの運行なのか乗合タクシーの導入かななどを検討し、協議していきたいと考えます。

中園会長：吉永委員の質問はもっと現実的なことだと思えます。計画を作ったらどうなるのかということでしょうか。

吉永委員：アンケートの結果などでは、もっとバス路線を増やしてほしいということになると思います。ここでは、循環バスの路線を考えるだけのような会議では意味がないと思います。協議会は、民間事業者にこういう風をお願いしたいというものを作って、事業者が検討に必要な調査費や事業費について、合志市として予算を出して取り組みますという権限があるものなのか。

中園会長：国の補助制度について、事務局からもう少し説明をしてください。

事務局：資料中の地域公共交通活性化・再生総合事業にあるように、この協議会で計画したものについては、国から3カ年の補助があります。協議会に補助があり、協議会が事業主体となります。その後の事業継続については実証実験の結果を受けて検討されることとなります。

松永委員：工業団地をはじめ、市内の交通渋滞の緩和や環境負荷の軽減を考えたときどうしても公共交通機関の充実は必要と考えます。これからこの協議会を進めていく上では、さらに積極的な意見を出していただきたい。交通事業者の熊本電鉄には、収支のバランスも必要ですが、もっと終電を遅くするなどの工夫をして、マイカーから乗り換えていただけるような取り組みに期待します。その先には、LRT化などの構想が現実的になると思います。利益追求以外にも、もっと積極的な取り組みが必要ではないでしょうか。

中園会長：吉永委員の質問に、大住市長から補足して回答をします。

大住市長：これからいろいろと論議があると思いますが、事務局から説明したように、補助事業を活用して実証実験を行っていききたい。必要な事業については予算化を進めます。

溝上副会長：私がこの協議会に委員として参画する役割は、こういうものが必要ですね

という意見を出し尽くすことだと思っています。補助事業があるから合志市の公共交通事業考えましようとなつたわけではなく、もともと合志市として公共交通に関して独自に取り組みたいという考えがあつて、協議会を立ち上げられ、そこにたまたま国の補助事業ができたということだと思ひます。国からせつかく補助を出していただけるのですから、できるものよりもできないかもしれないけれども実験をしてみたい、そうありたいと思うものを提案してみるとよいと思ひます。

松村委員：当社のLRT構想は、公共交通の将来と少子高齢化対策など見据えて構想を出したものです。現状としては、公共交通の利用者はますます減少していますので、その点では危機感を覚えています。ただ、今回を機会に、いろいろな試行錯誤をさせていただき、この中で計画されたものによって、市民のニーズにあつた公共交通をつくっていただき、皆さんの総意で計画を実行しましょうと結論付けていただければ、それに賛成したいと思ひます。

重光委員：私の意見としては、この地域公共交通協議会は、近隣都市との連携計画まで取り組むとなると10年20年の事業と思ひます。しかしながら、今回のこの協議会は、合志市独自の地域としての取り組みを、現状の中でいかにすばやく、住民のニーズにあつた、地域にあつた計画をつくる場だと思ひます。そのためにここに関係事業者さんをはじめとする関係者が集まっていると思ひます。ですから、この基本計画は、アンケートにもあるように、現在利用されているお年寄りや学生さんの交通の足をどうするかということが先決と思ひます。そのためには、運行本数を増やすとか、乗合タクシーを導入するなどの議論が先であると思ひます。ゆくゆくは、近隣地域との広域的な連携計画となると思ひますが、当面は合志市で考える問題が先だと思ひます。

杉町委員：九州運輸局熊本運輸支局です。合志市さんとしては、活性化再生法の補助事業を活用しながら、市の振興と活性化を目指されていく上で、第一に公共交通の活性化を図りたいとお考えと思ひます。総合計画のなかでもテーマと課題が出てありますが、それについて議論することと思ひます。これまでは交通事業者さんの責任でお願いしますということであつたが、それでは事業者は立ち行かない。マイカー利用者は、環境問題や渋滞のことを考えると公共交通が良いことは理解しているけれども、現実には便利で時間もかからず、雨にもぬれない、乗り継ぎもないということで、理屈はわかっている、なかなかそうはいかない。そういうことで、利用者が少なくなると、路線がへり、不便になるとますます利用者が減るといふ悪循環になってしまいます。これからの施策は公共交通事業者任せではなく、市町村が中心となつて関係者や市民、企業が集まつてこういう風にしましよつと交通計画をつくるためのきっかけとなるように、この地域公共交通活性化再生法ができました。先程溝上先生からあつたように、できそうなものは実際に実施して、できそうもないけれども試してみたいものについてこの補助事業を利用するといふ

テクニックもあると思います。この協議会は、提言というよりは来年度以降に取り組む計画をつくる場だとお考えいただければよいと思います。

それには、予算にも限度がありますが、国費や市の予算も負担して公共交通を確立させるために3ヶ年間、皆さんで一致団結してがんばりましょうということです。取り組む事業としては、LRT事業のような壮大な計画ではなくて、独自にすぐにでも取り組めるような事業を検討していくことだと思います。LRT事業については、別の検討委員会などがありますので、この場では議論せず、その検討内容はここでも報告いただくことはできると思います。私としては、バス交通の再編や乗合タクシーの導入などの検討、またそれに伴うデータ分析などを行うことと思います。そして4月からは、実際に循環バスの新ルート運行やJRや熊本電鉄へのシャトルバスの運行、お年より向けの乗合タクシーの運行など計画していったらよいと思います。

いろいろな議論も出るかと思いますが、将来の構想もあってよいかと思います。当面3年間でやることと、将来の課題としていろいろな計画をしておくこともできると思います。

中園会長：ありがとうございます。協議会のあり方について、ご理解をいただいたと思います。議題(2)から議題(3)に移ります。事務局から説明をお願いします。

事務局：資料集1の5ページ、今後のスケジュールについて説明。

中園会長：続きまして第2回の協議会の開催についてお願いします。

事務局：第2回の協議会は7月7日(月)午前9時30分からこの場所で開催します。

荒木委員：この会議の時間数をおおよそで設定いただきたいのですが。また、時間数を決めるか、その都度のテーマを決めておくなどのことはできないでしょうか。

事務局：いろいろな議論があることを想定して、今回は午前中いっぱいを予定していました。次回も午前中を予定していただければと思います。

中園会長：時間数は2時間を目安にし、テーマを絞って進行していきたいと思います。本日の議題はこれで終了します。資料の整理をお願いします。

名和委員：今後もいろいろと具体的な話があると思います。バス事業は益々厳しい状況となっています。ピーク時の30数%となり、厳しい状況です。溝上先生からもありましたが、全国の企業においても渋滞解消やCO2対策などの取り組みとしてバスの運行や公共交通機関を活用している事例がみられます。この協議会でも、合志市の企業が通勤や旅行でバスをはじめとする公共交通機関を移用するような計画について協力できるような場をつくっていただきたいと思います。

中園会長：ありがとうございます。議題がすべて終わりましたので、これで議長の役目を終わります。どうもありがとうございました。

大住市長：最後にお礼を申し上げます。今日はいろいろなご意見ありがとうございました。冒頭でも申し上げましたが、合志市の地域公共交通計画がより良いものができて、市民の生活交通の満足度が高まるよう取り組みたいと思います。

で、今後とも皆様にはご多用中で恐縮ですが、ご協力をお願い申し上げます。
これで閉会したいと思います。ありがとうございました。

7. 閉会 (11時30分)